

# ニッペケンエース®G-IIグロス

すぐれた機能性、美しい光沢仕上がり、そして作業性も効率的です。

防火材料認定番号	品目名
NM-8585	塗料塗装 / 不燃材料
QM-9816	塗料塗装 / 準不燃材料
RM-9364	塗料塗装 / 難燃材料

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

## ■特長

1. カチオン形樹脂を使用していますので、強力な付着力を発揮。幅広い用途の塗り替えに最適です。
2. 樹脂の特性と優れた防かび剤の組み合わせにより防かび性に優れ、長期のかび汚染防止も可能です。
3. 光沢の美しい仕上がりが可能です。(つやの調整は可能です。)
4. はけ塗り作業に優れ、速く乾燥するので1日2回塗りができます。

## ■他の塗料との比較

		ケンエースG-IIグロス	合成樹脂調合ペイント
塗膜性能	耐 候 性	◎	△
	耐 水 性	◎	△
	耐 アルカリ性	○	×
	防 か び 性	◎	×
	付着性	無機素材	◎
鉄 部		◎	◎
作業性	旧塗膜への適応性	◎	△
	はけ塗りの作業性	○	◎
	乾 燥 性 の 早 さ	○	×

◎：大変良好 ○：良好 △：やや良好 ×：不良

注) 建物の構造や地域、環境、方角、塗膜厚により、塗膜性能(耐久性、防かび性など)が十分に発揮されない場合があります。

注) 防かび効果は、かびの繁殖を抑制するものです。既に繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。

## ■用途

1. 建築内外表面の新設および塗り替え、コンクリート、モルタル、木部のほか、鉄部の上塗りとして光沢が要求される部位。
2. 防かび機能が必要とされる箇所。
3. コンクリート、鉄部などの素材が混在している箇所。
4. 店舗、デパートなど、改修補修工事の工期短縮を要求される現場。

## ■適用下地

新設適用下地	コンクリート、モルタル、木部、鉄部、硬質塩ビ	※鉄部など金属面には、下塗りとしてさび止め塗料をご使用ください。 ※新設木部(屋内)の場合には、下塗りに「Hi-CR 下塗白(無鉛)」をご使用ください。
旧塗膜	AEP、SOP、AE、EP-G	

## ■容量・荷姿

塗料名	系統	容量	色相	つや
ニッペケンエースG-IIグロス	カチオン形弱溶剤アクリル樹脂系非水分散形塗料	16 kg 4 kg	各色	つや有り 7分つや有り 5分つや有り 3分つや有り

# 標準塗装仕様

ケンエースG-IIグロスの上に直接ケンエースG-IIを塗装すると、割れたり、縮んだりすることがありますので避けてください。

工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
素地調整	新設面： 1. エフロレックス、レイタンスなどの粉化物、よごれ、油分などを除去してください。 2. 液浸透シーラー、ファイン浸透シーラーなど溶剤系シーラーをご使用ください。 (ケンエースG-IIグロスを30%希釈し、シーラーの代用も可能です。)						
	塗り替え面： 1. 浮き膜を除去し、その周辺もケレンしてください。 2. 粉化物、よごれ、ごみ、かびなどを除去し、清掃してください。						
上塗り	ニッペ ケンエースG-IIグロス	2	0.12~0.14 <small>注)</small>	4時間以上	塗料用 シンナーA	5~10	は け
			0.13~0.15 <small>注)</small>			10~15	ウールローラー
						25~30	エアレスブレイ

※ 上記の各数値は、すべて標準のもので、被塗物の形状、素地の状態、気象条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。  
塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもって下さい(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)。  
※ カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いいたします。  
注) ・ニッペケンエースG-IIグロス]の塗付け量は、0.12kg/m<sup>2</sup>/回です。 ・使用量:被塗装面単位面積あたりの塗塗材料(希釈する前)の使用質量 ・塗付け量:被塗装面単位面積あたりの塗塗材料(希釈する前)の付着質量

## 施工上の注意事項 (詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください)

- 低温時など、開閉時に流動性のない場合があります。この場合は過度に希釈をせず、振動や攪拌により流動性が発現してから希釈してください。
- 鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。
- つや調整では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいため、面を切って通して塗装してください。
- 過剰希釈をすることで本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かきはんながらご使用ください。
- 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取り入れ口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者への配慮をお願いします。
- 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- 異なる色相を塗り重ねる場合(例：1回目の上塗りを塗してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合)2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色(ブリード)による場合がありますのでご注意ください。
- 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなおそれがあります。
- 内部塗り替えにおいて旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。
- シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きしてから被塗装面に十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥(目安23℃、6時間)させてから2回目の塗装をすることでやにの止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面に十分に乾燥させてから塗装してください。
- 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケト科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケト科学社製HI500シリーズ)コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
- 表面のごみ、ほこり、エフロレックス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑してください。
- ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において、巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ1材チオンプライマー、ニッペファイラー200)などで処理してください。(合成樹脂エマルジョンバテの使用は避けください。)
- 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りのシーラーを塗装してください。
- 素地にセメント成分などが使われている場合は、エフロレックスが発生するおそれがありますので溶剤系シーラーをご使用ください。
- 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- VPの旧塗膜への塗装はお避けください。
- 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮膚の影響により塗膜表面の軟化が起きます。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
28. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
29. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
30. 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
31. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
32. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
33. シーリング面の塗装は、塗膜の汚染、はく離、取縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、取縮割れが起こることがあります。
34. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
35. 薄めすぎは隠れない力不足、仕上がりに不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
36. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れない場合があります。そのため、事前に試験施工塗り板などで確認下さい。
37. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
38. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所に使用する場合は、ファイナリコンプレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や痛みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
39. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
40. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
41. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なる場合も見ることがあります。
42. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
43. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
44. クロスの上の塗装は避けてください。
45. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用で使ってください。
46. 可塑剤が多含まれる塩ビ珪鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
47. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
48. 塗料は内容物ごとくはかるようにかかはんでください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、よくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかかはんでご使用ください。
49. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷蔵所で保存し、速やかに使い切ってください。
50. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
51. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

## 安全衛生上の注意事項 (ニッペケンエースG-II グロス ホワイト)

<ol style="list-style-type: none"> <li>使用前に取扱説明書を入力してください。</li> <li>すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないでください。</li> <li>熱/火花/炎/高温のもののような着火源から遠ざけてください。一禁煙です。</li> <li>容器を密閉しておいてください。</li> <li>容器を接地/アースをとってください。</li> <li>防塵型の電気機器/換気装置/照明機器を使用してください。</li> <li>火花を発生させない工具を使用してください。</li> <li>静電気放電に対する予防措置を講じてください。</li> <li>粉じ/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないでください。</li> <li>0.01mm以下の手洗いは、手洗いを必ず行ってください。</li> <li>11. 屋外または換気の良い場所でのみ使用してください。</li> <li>12. 必要な時以外は、環境への放出を避けてください。</li> <li>13. 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面罩を着用してください。</li> <li>14. 皮膚または髪に付いた場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱いでください。皮膚を流水かシャワーで洗ってください。</li> <li>15. 吸入した場合：気分が悪い時は、医師に連絡してください。</li> <li>16. 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移り、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。</li> <li>17. 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。</li> <li>18. はく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けてください。</li> <li>19. 気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けてください。</li> <li>20. 緊急の特別な処置が必要な場合は実施してください。</li> <li>21. 口をすすいでください。</li> <li>22. 皮膚刺激を生じた場合：医師の診断/手当を受けてください。</li> <li>23. 眼の刺激が続く場合は：医師の診断/手当を受けてください。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>24. 汚染された衣類を脱いで、再使用する場合には洗濯してください。</li> <li>25. 火災の場合：消火に適切な手段を使用してください。</li> <li>26. 漏出物を回収してください。</li> <li>27. 換気の良い場所/涼しい場所に保管してください。容器を密閉しておいてください。</li> <li>28. 施設にて保管してください。</li> <li>29. 内容物/容器を国/地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。</li> <li>30. 直射日光や水濡れは厳禁です。</li> <li>31. 塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。</li> <li>32. 本来の用途以外に使用しないでください。</li> <li>33. 塗料、塗料容器、塗具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込み、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。</li> <li>34. 容器からこぼれた時には、布で拭き取った水を張った容器に保管してください。</li> <li>35. 日光が直射し、換気の良い場所保管してください。輸送中も50℃以上(スプレー缶の場合は40℃以上)の温度にばく露しないでください。</li> <li>36. 容器は、つり上げないでください。やむを得ずつり上げるときは、適切な吊り具で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意してください。(荷重倍率になると取っ手が外れ、落下事故の危険があります)</li> <li>37. 屋外で使用する場合は、使用する場所に隣接する家庭の換気口、空気取り入れ口等に目張りをするなど、蒸気、ガス等が屋内に入らないようにして下さい。</li> </ol> <p>※ 上記の表示は、一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。  <input type="checkbox"/> 詳細な内容、表示以外での製品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。  <input type="checkbox"/> 本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。</p>
--	--

	<h3>危険有害性情報</h3> <p>引火性液体及び蒸気/皮膚刺激/強い眼刺激/呼吸器への刺激の恐れ、眠気又はめまいのおそれ/水生生物に非常に強い毒性/生殖能又は胎児への悪影響のおそれ/長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性/長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ</p>
--	--

## 日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101	近畿支店 ☎06-6455-9608
東北支店 ☎022-232-6712	中国支店 ☎082-281-2180
関東支店 ☎03-5479-3614	四国支店 ☎0877-56-2346
北関東信越支店 ☎03-5479-3614	九州支店 ☎092-751-9861
中部支店 ☎052-461-1960	

●本カタログの内容については予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。  
●本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。  
●© Copyright 2019 NIPPON PAINT CO., LTD. All rights reserved.  
●日本ペイントホームページ <http://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.  
NP-W032  
TY180503T  
2018年5月現在